



10月号

No. 465



(本校 HP はここから)

横浜市立都田小学校

令和4年9月 30日

かか なか う だ おんがく 関わりの中で生み出される音楽

こうちょう いまむら こうどう
校長 今村 行道

少し前の話になりますが、令和4年6月20日(月)、本校にエジプト駐日大使のご夫人であるハナンさんがお越しになりました。日本の音楽教育や特別支援教育にご興味があり、学校全体を視察され、いくつかの授業をご覧になりました。どのクラスにおいても、子どもたちが生き生きと学習に取り組む姿に感心されたほか、子どもの状況に合わせた配慮がなされている点に驚かされていました。

参観した6年1組の音楽の授業では、冒頭に子どもたちから自作のプレゼントをお渡しするサプライズがありました。そのあとクラスで演奏した「カノン」は、初めて合わせたとは思えないほど、一人ひとりのリコーダーの旋律が重なり、なんともいえない「一体感」のような雰囲気が生まれました。「音楽もプレゼントしたい」という思いが伝わったのかもしれませんが、ハナンさんも感激されていました。

令和4年9月28日(水)、6年2組の音楽の授業に、東京大学大学院に在学中で、バイオリン奏者でもある藤本茉里恵さんをお招きしました。これは、教師、音楽関係者、演奏家が協働し、「学校と社会を結ぶ音楽教育」の一環として行われたものでした。

子どもたちは、前の音楽の授業で、「パッサカリア」という音楽を聴き、ベースとなる弦楽器の音に合わせて、iPad内に入っているバイオリンの音を使って、自分の旋律をつくっていました。そこに登場した藤本さんが、パッサカリアの生演奏を披露し、子どもたちは、その演奏にヒントを得て、自分の旋律を新しく作りかえていきました。すばしかったのは、反応の早さと発想の豊かさです。子どもたちは、藤本さんの演奏する、トリルと呼ばれる細かい音の飾りや、2つの旋律を同時に演奏する技法に感化され、これまでにない旋律をつくり出していました。周囲から驚きの声があがっただけでなく、見ていた教師も鳥肌が立つような出来栄でした。



音楽は、人にとって、それ自体でも意味のあるものだと思いますが、人と関わることによって新たなものが生み出されるということ、2つの授業が改めて教えてくれました。この豊かな感性をこれからも育てていきたいと思っています。そして、人との関わりやつながりを大切にしながら、日々の教育を進めていきたいと考えています。